

予報期間 4月20日から4月26日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 22日は、高気圧が日本の東へ移動し、低気圧が朝鮮半島付近から日本海へ進む。
- 23日は、低気圧が北日本付近へ進み、前線が日本付近を東進する。
- 24日は、低気圧が日本の東へ進み、次第に不明瞭となる。前線が日本の東から日本の南へのびる。
- 25日は、低気圧が沿海州付近へ進み、高気圧が東シナ海へ移動する。
- 26日は、低気圧がオホーツク海へ進み、東シナ海の高気圧はゆっくりと東へ移動する。

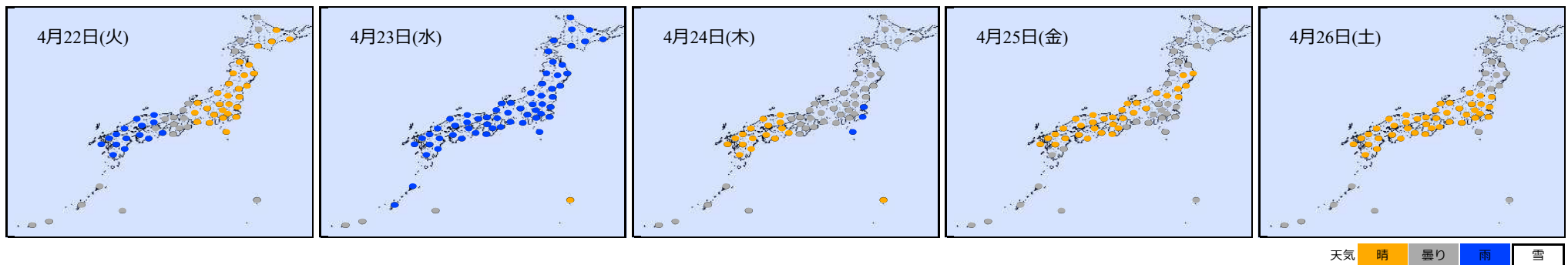
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

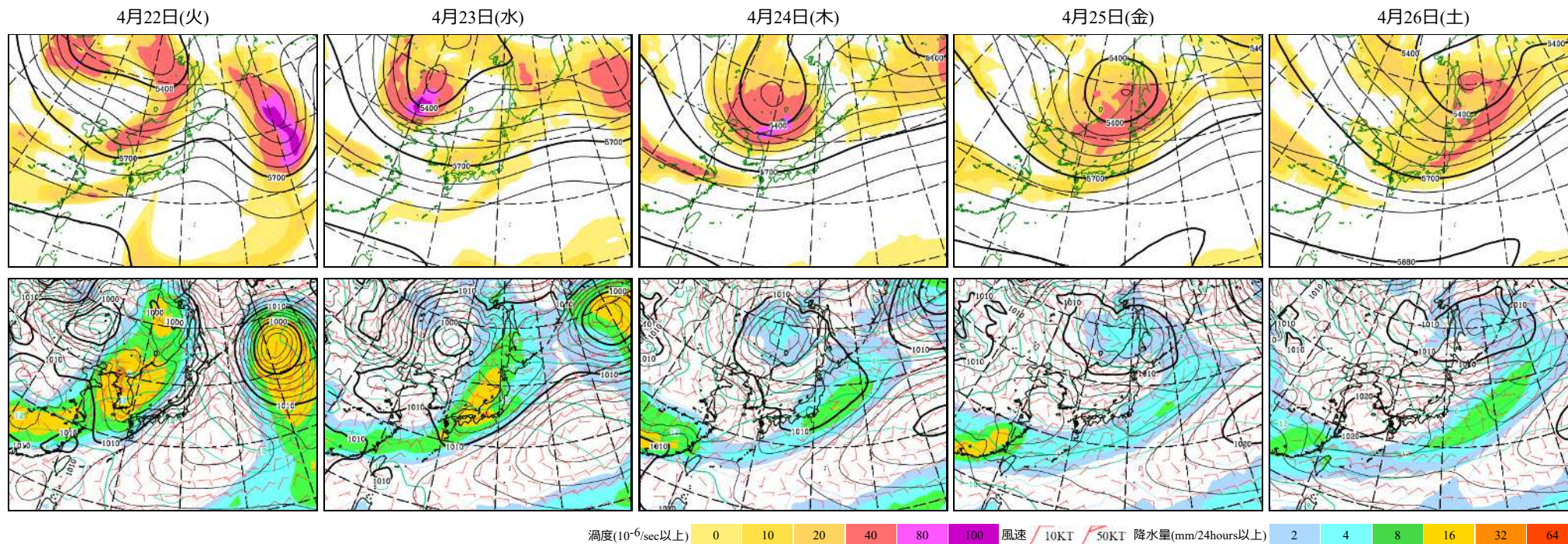
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

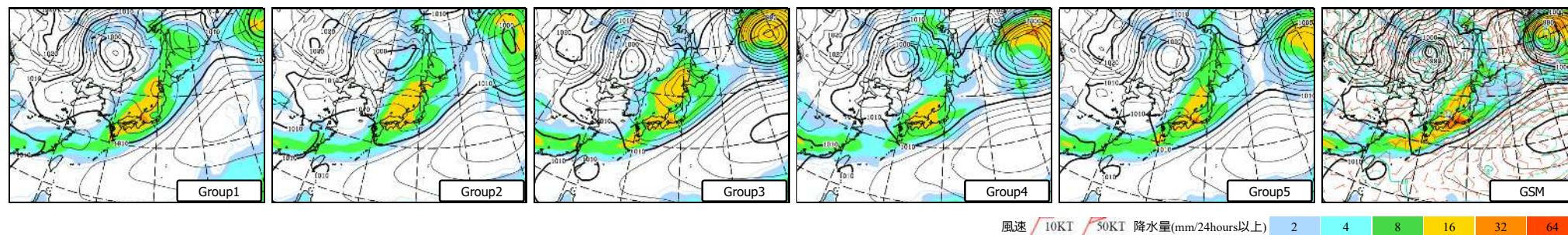


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、22日は晴れる所が多い。
- 東日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、23日は雨の降る所が多い。
- 西日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、22日から23日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、23日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月23日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、23日は日本付近の気圧の谷が浅くなった。また、25日から26日に沿海州からサハリン付近へ進む寒冷渦が深くなったことに対応して、地上の低気圧が明瞭となった。降水確率ガイダンスの初期値変わりは比較的小さいが、23日の北海道は降水確率が大きくなった。
- 23日は、各モデルとも低気圧が日本海から北日本へ進み、前線が西・東日本を通過する予想でおおむね揃ってきた。その後は、寒冷渦に対応した低気圧が沿海州付近からサハリン付近へ進み、本州付近は帯状の高気圧に覆われる予想もおおむね揃っている。昨日資料に比べ、モデル間の差が小さくなった。
- スプレッドは、昨日資料に比べ小さくなり、日本の北の5400m付近の寒冷渦の予想についてもばらつきが小さくなった。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。